

医薬事業 臨床開発品目一覧（2015年2月5日現在）

<自社開発品>

開発番号 (一般名)	想定する 適応症/剤形	作用機序		開発段階	備考
JTK-303(elvitegravir)/ cobicistat/emtricitabine/ tenofovir alafenamide 配合錠	HIV感染症 /経口	インテグラーゼ阻害/ 逆転写酵素阻害	HIV(ヒト免疫不全ウイルス)の増殖に関わる2 つの酵素の働きをインテグラーゼ阻害剤と核酸 系逆転写酵素阻害剤により阻害し、ウイルス量 を低下させる	国内:申請準備中	新規配合錠 JTK-303(elvitegravir)は自社品 他3成分は導入品 (Gilead Sciences社)
JTT-851	2型糖尿病 /経口	GPR40作動	グルコース依存的にインスリン分泌を促進し、 高血糖を是正する	国内:Phase2 海外:Phase2	自社品
JTZ-951	腎性貧血 /経口	HIF-PHD阻害	HIF-PHDを阻害することにより、造血刺激ホル モンであるエリスロポエチンの産生を促し、赤血 球を増加させる	国内:Phase2 海外:Phase1	自社品
JTE-051	自己免疫・アレルギー疾 患 /経口	ITK阻害	免疫反応に関与しているT細胞を活性化するシ グナルを阻害し、過剰な免疫反応を抑制する	海外:Phase1	自社品
JTE-052	自己免疫・アレルギー疾 患 /経口・外用	JAK阻害	免疫活性化シグナルに関与しているJAKを阻 害し、過剰な免疫反応を抑制する	国内:Phase1	自社品
JTE-151	自己免疫・アレルギー疾 患 /経口	ROR γ アンタゴニスト	Th17細胞の活性化に中心的な役割を担うROR γ を阻害し、過剰な免疫反応を抑制する	海外:Phase1	自社品
JTE-350 * (ヒスタミン二塩酸塩)	アレルギー皮膚テスト実施 時の陽性コントロール/注 射剤	ヒスタミン受容体アゴニ スト	皮内のヒスタミン受容体に作用し、検査部位の 皮膚に膨疹および発赤反応を誘発させる	国内:申請中	導入品 (ALK社) 鳥居薬品と共同開発
JTT-251	2型糖尿病 /経口	PDHK阻害	糖代謝に関与するピルビン酸脱水素酵素 (PDH)を活性化し、高血糖を是正する	海外:Phase1	自社品
JTT-252	2型糖尿病 /経口	SGLT1阻害	小腸の糖吸収トランスポーター(SGLT1)を阻害 し、高血糖を是正する	海外:Phase1	自社品
JTK-351	HIV感染症 /経口	インテグラーゼ阻害	HIV(ヒト免疫不全ウイルス)の増殖に関わる酵 素であるインテグラーゼの働きを阻害し、ウイル ス量を低下させる	国内:Phase1	自社品

(注)開発段階の表記は投薬開始を基準とする

*厚生労働省主催の「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議」において開発企業の募集が行われた品目

<導出品>

一般名等 (当社開発番号)	導出先	作用機序		備考
elvitegravir (JTK-303)	Gilead Sciences社	インテグラーゼ阻害	HIV(ヒト免疫不全ウイルス)の増殖に関わる酵 素であるインテグラーゼの働きを阻害し、ウイル ス量を低下させる	(適応:HIV感染症) 新規配合錠 (elvitegravir/cobicistat/emtricitabine/tenofovir alafenamide) 米国・欧州 申請中
trametinib	GlaxoSmithKline社	MEK阻害	細胞増殖シグナル伝達経路に存在するリン酸 化酵素MEKの働きを阻害することにより、細胞 増殖を抑制する	(適応:メラノーマ dabrafenib併用) Phase3
抗ICOS抗体	MedImmune社	ICOSアンタゴニスト	T細胞の活性化に関与しているICOSの働きを 阻害し、免疫反応を抑制する	
JTE-052	LEO Pharma社	JAK阻害	免疫活性化シグナルに関与しているJAKを阻 害し、過剰な免疫反応を抑制する	

前回公表時(2014年10月30日)からの変更点

<自社開発品>

- ・JTK-303(elvitegravir)/cobicistat/emtricitabine/tenofovir alafenamide(E/C/F/TAF)配合錠:「申請準備中」へ変更
- ・JTE-350: 日本国内での製造販売承認申請を実施(2014年12月22日)

<導出品>

- ・JTK-303(elvitegravir)/cobicistat/emtricitabine/tenofovir alafenamide(E/C/F/TAF)配合錠: Gilead Sciences社が米国・欧州で承認申請実施
- ・JTE-052: LEO Pharma社へ皮膚外用剤としての日本を除く全世界の独占的開発・商業化権を導出(2014年11月4日)